Jaspers Society of Japan

追悼　武藤光朗先生

中　山　剛　史

平成10年７月25日、本協会の顧問武藤光朗先生が虚血性心不全のためご自宅にて急逝された。享年84歳であられた。先生は安らかに眠ったまま息をひきとられ、生前のご遺志に従い、儀礼的なことは一切行われずにひっそりと納骨も終えられたとのことである。本来ならば、先生の追悼文は私のような若輩ではなく、武藤先生と長く親交を温めてこられた先生方がお書きになるのが最もふさわしいと思われるが、昨今たまたま武藤先生の思想についての小論を書かせていただいたご縁もあって、お勧めにより急遽私がお引き受けすることになった次第である。

武藤光朗先生は、1914年（大正３年）に福島県にお生まれになり、幼少の頃にご両親を亡くされて、その後間もなく、長崎の長兄のもとにお移りになられた。先生は少年時代から「例外者」的なものに強く心を惹かれておられたが、長崎の旧制高等商業学校時代には、経済哲学者左右田喜一郎の著作に触れられ、とりわけ「一個独自の、孤独ではあるが崇高な個人人格の尊厳」を重視するその「創造者価値」の思想に共鳴され、「経済哲学」に強い関心を抱かれた。東京商科大学（現一橋大学）に入学された後は、左右田哲学の継承者である杉村広蔵のゼミナールに入られて、本格的に経済哲学に取り組まれた。マックス・ウェーバーの思想やヤスパースの実存哲学に出会われたのも丁度この頃である。昭和12年に東京商大を卒業された後は、一時横浜専門学校（現神奈川大学）で教鞭を執られたが、戦後は国学院大学教授、中央大学教授、早稲田大学客員教授などを歴任された。

NII-Electronic Library Service

Jaspers Society of Japan

その間に、ヤスパースの主著『哲学』第一巻『哲学的世界定位』の翻訳をはじめ、『革命思想と実存哲学』、『限界状況としての日本』、『例外者の社会思想』、『自由人権の運命』、『現代日本の挫折と超越』など十数冊にも及ぶ著作を世に出され、社会思想家としてのユニークな文筆活動を行なってこられた。その一方で、民主社会主義を中心とする社会・政治活動にも積極的に参加され、昭和41年には民主社会主義研究会議の議長に就任されているほか、自由人権委員会の委員長やインドシナ難民連体委員会の会長なども務められている。

先生は昭和26年の日本ヤスパース協会設立の際にも多大なご尽力をくださり、さきに亡くなられた鈴木三郎先生・草薙正夫先生と共に本協会の創立者の一人であられた。さらに昭和59年に再発足した本協会においても理事と顧問とを務められ、第4回大会では「『浮遊』と『壁』——ヤスパース哲学がいま問いかけるもの——」、第12回大会では「オウム世代の“こころの世界”とは？」と題して、現代の若い世代の精神状況をヤスパース哲学の視点から鋭く抉った大変興味深いご講演をしてくださった。

武藤先生の社会思想の中心は、ヤスパース哲学を背景とした単独者・例外者としての唯一的個人の魂の自由と尊厳であり、左右の全体主義への徹底した批判や鋭い時事評論もすべてそこから展開されている。私も早大の学部生時代に、武藤先生の「社会思想」の講義を聴講させていただく幸運を得たが、ヤスパースを髣髴とさせる先生の真摯な実存的思索に深い感銘を受けた。また、ジョン・レノンやキング・クリムゾン、ビリー・ジョエルといった当世代のロック・ミュージックの歌詞の中に実存的な魂の訴えを読みとられるなど、若者文化にもたえず積極的な関心を寄せられた先生の斬新な感覚は大変印象的だった。昨今たまたま、「〈例外者〉の社会思想——武藤光朗——」と題する小論を書かせていただく機会があったが、

NII-Electronic Library Service

Jaspers Society of Japan

昨年の春に先生に出来上がった拙論をお送りすると、先生は大変お喜びになって、それ以来ずっと机の上に置かれているとのことだった。それだけに、その数ヵ月後の武藤先生ご逝去の知らせはまさに青天の霹靂であった。

武藤先生はここ数年は仏教にも大変関心を寄せられていたというお話で、弔問に伺った際にも、先生の机の上には亡くなられた時のまま一遍上人の語録が開いてあった。とくに「万事にいろはず一切を捨離して孤独独一なるを死するとはいふなり。生ぜしもひとりなり、死するも独（り）なり」という箇所には先生ご自身による傍線が施されていたが、昨今よく「80歳の坂を超えてようやく『限界状況』という言葉の実感がわかってきた」と話されていたというご心境が察せられる。令夫人のお話では、亡くなられた前日はしきりに「どうして水がこんなにうまいんだろう」と話されており、最期の時はいつにない安らかな明るい笑みを浮かべられていたそうである。

改めてここに武藤先生のご冥福を心よりお祈り申し上げたい。　合掌

平成11年1月11日

玉川大学専任講師

NII-Electronic Library Service